

スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードの
フォローアップ会議（第3回）に向けたコメント

2015年 11月 24日

東レ（株）常務取締役 内田 章

- 3回連続しての欠席となり大変心苦しく思う。これまでの議論も踏まえ、今考えていることを下記の通りお伝えしたい。
- 本年6月にコーポレートガバナンス・コードの適用が開始されて以来、企業においては、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図る観点から、自社のコーポレート・ガバナンスが形式ではなく実質を伴ったものとなるよう、株主や投資家との対話を行いながら対応を模索しているところである。
- こうした中、一般的には、コンプライア率の高低、独立社外取締役の人数や、会社の機関設計など形式的な点にのみ着目して企業の対応を評価する向きもあるが、重要なのは形式ではなく、企業がエクस्पラインすることも含め、投資家と企業が中長期的な企業価値向上に向け建設的な対話をしているかであり、本会議においては、今後ともこうした観点から議論が行われることを期待している。
- 本日議題となる政策保有株式についても、有識者会議における様々な議論を経てコードに原則 1-4 が盛り込まれ、現在、各企業においては、これを踏まえた対応を進めているところである。従ってこの会議では、今後企業が政策保有の必要性の有無を検証した上でどのような開示や説明を行い、これに対し、株主や投資家がどのように反応し、どのように企業との対話を行っているか、また、こうした取組みを日本企業の中長期的な成長にどうつなげていくかといった観点から議論がなされることを強く期待する。

以上